

昭和天皇御幼少期関係資料 二

—「木戸孝正日記」明治三十八年一月〜五月—

川	植	梶	福	岩
畑	山	田	井	壁
		明	淳	義
惠	淳	宏		光

本稿では、本誌第五三号に引き続き「木戸孝正日記」(国立歴史民俗博物館蔵)明治三十八年一月一日から同年五月三十一日までを掲載する。当初本号に掲載を予定していた同日記六月から九月分および御養育に関して記された「重要書類」は、紙幅の都合により次回に掲載する予定である。なお日記の概要および凡例は前号を参照されたい。

(明治三十八年)

一月一日 日 「四方拜」今朝迪宮淳宮兩殿下平日二倍シ御機嫌克く、七時予

より豫テ申上ケ置たる伊勢大廟、兩陛下及御両親殿下二始メテ御朝拜被遊。右三幅之懸地ハ昨夕出来、東京より着致したる也。御朝餐之後九時三十分御出門御用邸ニ被為成、東宮殿下へ御年賀被申上、次て東宮の御側ニて一同の拝賀を被為受、十時三十分還御。御昼餐ニ始メテ御祝御膳を被為賜、今日より三日迄三日間、一日兩度御祝御膳を進す。午後迪宮殿下御冥畑ニて茶風を被為上。○昨夜認メ置の書状を今朝、又夜別ニ一書寿栄子へ郵送す。○朝寿栄子より一書到着。○今日天気最も晴朗、芽出度元旦なり。○午後当県知事・警部長・判事・郡長等参賀す。

二日 月 兩宮殿下御機嫌至て御麗シ。○午前十一時沼津町立女子尋常高等小學校附属幼稚園生徒七十余名伺候、御庭前ニて種々遊戯を催し御覽ニ入れ、兩殿下も御庭ニ御下り被遊願る御満足被遊。一時頃悉く退出。御目録及ミかん等を賜ハる。○午後二時過ぎより東宮行啓被遊、又一位局も伺候す。各賜り品及献

上物ありたり。四時頃東宮還御、次て一位局も退出す。○夜小児等四名へ當時之繪葉書各一枚を郵送す。○正午頃旅順弥陥落之報ニ接シ、実ニ帝國陸海軍之為メ雀躍之到リニ不耐、益皇威拡張を万禱する而已也。

三日 火 「元始祭」午前九時半一位局へ年賀ニ到り、御用邸ニ立寄り殿下二拝調シ、又武官より敵將某の旅順日記翻訳及遼陽戦地写真を借用し帰る。○寿栄子書面外一通并ニ幸一・治子及八重子より絵端書又ハ書状到来。小六よりも差送りたる由なれ共途中ニて紛失せるか未タ不届。○今朝淳宮御洗腸之事ニ付医士及看護婦を賁む。○午後二時過ぎより御用邸ニ到り四時過帰る。○夜御夕之御祝御膳之御すべりを頂戴す。○八時過キ旅順弥陥落、又妃殿下ニハ七時廿八分皇子御分娩之報ニ接シ、直ニ東京へ兩宮殿下より之御祝電を發シ、次て御用邸ニ出て東宮殿下ニ拝賀シ、シヤンパン酒を頂き十時過ぎ帰る。○留守へ書状兩通を出す。

四日 水 午前九時四十五分兩宮御出門、御用邸ニ被為成東宮ニ御対面、祝詞を御述へ被遊、十時半還御。○予ハ十一時半頃より再び御用邸ニ到り、正午御祝宴ニ陪シ、後東宮殿下と二時頃まで御対談申上ケ三時頃帰る。○三時過ぎ山内皇后宮亮兩陛下之御使ニて伺候、種々被進品を御披露ス。○柏村孝正死去之趣ニ付弔電を發す。○川村未亡人伺候す。○幸一及小六の写シたる東郷大将之馬車ニ乗り居る函及サンフハロ犬之函等数枚到着す。○夜岩崎艶子来り看護婦云々の事ニ付密談す。依て予の所見を述へ是を諭す。

五日 木 「新年宴会」午前八時半岩崎つや子及小原侍医局勤務を呼び、列座之上看護婦一同集メ、予心得書六ヶ条を申達ス。各殿中の紀律ニ関スル事なり。

○小六新始端書来る。以前之分ハ紛失したるか如し。○午後早々つや子一位局ニ到る。○丸尾侍従昨夜東京より帰着ニ付、今朝十時過ぎ妃殿下よりの被進品等持參伺候す。賜調。品ハまゆ玉及御菓子也。○土方伯より来書。○午後二時半より御用邸ニ到る。偶々東宮御散步にて御門前にて拝謁す。御用邸にて丸尾と球戯を為シ四時半帰る。○今夕新年宴会ニ付御祝御膳を供す。○正午前海岸にて両殿下の御写真を二枚採影す。

六日 金 午前九時より両宮殿下香貫山方面へ御運動ニ被為成、予供奉ス。途中東宮殿下ニ御邂逅被遊、十時半還御。○黒水武官昨日東京より来着之趣を以て伺候し、両宮殿下賜謁。○午後より降雨、夜ニ入るも不歇、且ツ一時中々烈しかりし。○午後斎藤大夫へ書面を認メ郵送す。○去月三十一日旅順沖にて高砂艦漂流機械水雷ニ罹り沈没之確報なる旨を黒水より聞き痛惜ニ不耐。同艦ハ先年東宮和歌山より高松まで予も供奉にて御乗艦被遊たる軍艦也。〔発信〕斎藤大夫へ一書。〔受信〕早朝寿栄子より三日出之書状落手。○山尾三郎よりも来書。

七日 土 昨夜半より雨止ミ今朝好晴。○鶉十羽を侍従及主事ニ賜ハる。○女孺野崎かね実娘病氣危篤之由ニ付帰京を願出づ。依て之を許可す。○午前十時兩宮殿下御出門御用邸ニ被為成。東宮之御側にて御昼餐被召上、十一時半還御。○正午頃より当静浦村之人民一同の旗行列御用邸前の海浜ニ来集シ、万歳を数唱す。迪宮御覽被遊、淳宮も後れて御覽被遊。○予ハ二時過ぎより御用邸ニ到り三田及田内と玉突を弄シ夕景帰る。〔受信〕寿栄子より来書。

八日 日 今日東宮御講書始メニ付、予も十時頃より御用邸ニ到り御式ニ列す。○正午前帰る。○午後二時頃留守宅へ一書を出す。後チ又寿栄子より来書。其趣ニ依レハ治子又々発熱四十度一分ニ達したる趣ニ付心配ニ不耐、直ニ電報を發、刻下の容体を聞き合し、夜ニ入り返電来リ大ニ快方の由ニ付安心す。○二時過ぎ桑野銳東京より帰着す。○今朝錦小路来リ、明日新皇孫御命名之御式当地にて被為行事ニ相成り、徳大寺侍従長日高秘書官隨從明日来着之由報告ニ来る。○夜六時半東宮ニ御陪食シ、後チ玉突等之御对手を為シ、九時半帰る。○

岩倉公爵より西郷の子息病中依頼云々申来る。○三島及三田侍講伺候、各賜調。〔受信〕寿栄子より来書又返電夜落手。

九日 月 午前九時半兩殿下御出門御用邸ニ被為成。今日第三皇子御命名之御祝賀を被申述、次て供奉員一同の拝賀をも被為受、又東宮と御一同にて徳大寺侯及日高にも賜謁。十時半還御。○第三皇子ハ光宮宣仁親王殿下と被命。恐悅至極也。○サラザン^(藤吉)伺候、賜謁。又御菓子を獻す。○今朝御藥劑侍医局より受授之手続を平野^(藤吉)藥劑師を呼ひ申渡す。○頃日来東京留守宅よりの報知ニ依レハ、山尾翁病氣甚タ抄々しからず、甚タ心配す。○午後四時過ぎより御用邸ニ到り五時御命名之御祝宴ニ陪シ(立食)、後玉突之御对手を為シ、七時半帰り明日之帰京之身支度を為す。〔受信〕寿栄子より昨日八日附之書状着。

十日 火 午前七時半兩宮殿下ニ御暇を乞ひ皆々に告別シ、八時御旅館を出て御用邸より回したる馬車にて沼津停車場ニ到り、同四十五分同所發之汽車にて帰京。午後二時三十七分新橋着、直ニ青山御所ニ出て光宮殿下ニ始メて拝謁す。万里小路女官監督及桂主事ニ面会し、又東宮より被命持帰りたる光宮御名記を御大奥ニ出す。四時過ぎ退出、直ニ帰家す。治子之外皆々無事。同人も今日ハ次第ニ快き方にて稍安心す。

十一日 水 午前九時宅を出て賢所ニ參シ、英照皇太后御年祭ニ付皇靈殿ニ於て皇太子殿下之御代拝を奉仕シ、次御内儀ニ到り姉小路典侍ニ面謁、東宮及兩皇孫三殿下之御近情を申述へ、又侍從職ニ到り徳大寺侍従長及岩倉幹事ニ面談。偶桂總理大臣及山県元帥も伺候、暫く共ニ雑談す。十一時退出。田中宮内大臣^(伊与子)夫人之病氣を見舞ひ、次て有栖川宮ニ伺候シ正午帰家す。○午後山尾翁を見舞ひ、次て芝ニ立寄る。

十二日 木 終日無事。

十三日 金 ○午前予の履歷書等を取調ぶ。

○^(忠明)広幡侯爵薨去ニ付午後同人邸ニ弔問シ、次て足立太郎を訪ひ、同人不在ニ付夫人及娘ニ面会シ夕刻帰家ス。

十四日 土 午前山尾三郎来訪。○正午過ぎより外出す。

十五日 日 午前弘田長来談。同十時半より宮城御内儀ニ出て姉小路典侍ニ面会、種々御用を承り、帰途有栖川宮ニ伺候す。今日故熾仁親王之御十年祭ニ付御社ニ参拝シ、後チ殿下ニ拝謁。始めて今回斎藤大夫更黜し中山侯之二更ハる由を承り大ニ喫驚す。十二時半一旦帰家。午後御大典ニ出て万里小路女官其他ニ面会御用を承り、次て鳥居坂へ行き翁を病床ニ訪ひ告別シ、且ツ此度大夫更黜ニ付予一身之処置を内密相談シ、種々懇篤なる注意を受く。依テ直ニ田中宮内大臣を同人官舎ニ訪ひ面会シ種々懇談、予の心事を吐露し予の進退を依頼し置く。六時頃帰家す。

十六日 月 午前九時伊藤侯を靈南坂之官舎ニ訪ふ。未夕起床前ニ付待チ居りしに、伊藤勇吉も来り種々雑談ニ時を移シ、已ニ十一時前ニなりたれ共起床之模様無之、偶小山善来り候ハ聊か風邪之由を告ぐ。依テ不得止勇吉ニ予の来訪の意を談し、侯ニ伝言を依頼シ直ニ辞し去る。正午十二時宅を出て同三十分新橋発之汽車ニて沼津ニ向ひ、五時過ぎ同所着。直ニ御用邸ニ伺候シ東宮ニ拝謁シ、六時半帰り両宮殿下ニ拝謁、東京宮城及御内儀よりの被進品其他を御披露す。○長田医員明朝より帰京し、小原交代なす筈也。

十七日 火 午前無事。○午後杉翁及留守へ両通書状を出す。○午後六時半東宮ニ御陪食を被仰付、其前御用邸ニ到る。于時斎藤東京より帰着致したる由なれ共、行違ひ遂ニ面会せず。○夜九時半御用邸より帰る。○桑野私用ニて世古ニ到る。

十八日 水 午前九時半より御用邸ニ到り斎藤大夫ニ面会シ、同人今回更黜の件ニ付互ニ意見を交換シ、大ニ嘆息シ且ツ前途を憂慮す。十二時頃帰る。○平野藥劑士帰休を請ふ。依テ明日より帰京を許す。○桑野銳今朝より私用ニて一泊懸ケ帰京す。○午後三時半より再び御用邸ニ到り、東宮より親しく今回大夫更黜云々の義を承り、予大ニ其宜しからざりし旨を切ニ痛論言上なしたれ共、最早決定之上ニて素より今更變更之余地無之遺憾ニ不堪。○午後六時半帰る。十九日 木 終日降雨。午前十時頃より御用邸ニ到り、斎藤大夫と面談之上正午過ぎ帰る。○今朝予ライスパチングを製せしめ両宮ニ進めんと為したるに、予

の不在中小原医員遮て不進。依テ予小原を呼ひ其旨意を糺シ予の不満を述ぶ。

○午後二時過ぎより再び御用邸ニ到り、東宮ニ今回斎藤大夫更黜ニ付て八同大夫今日までの勲勞ニ対シ、殿下同人之為メ勲章陞叙之御周旋を被遊て可然旨言上致し、御嘉納被遊。予歡喜ニ不耐。後チ玉突などを弄シ六時過ぎ帰る。夜有川と囲碁一曲を闘ハす。○夜十一時前桑野銳東京より帰着す。

二十日 金 今日東宮鳥渡御帰京ニ付午前九時兩宮の御供を為シ御用邸ニ到り、兩宮東宮ニ御告別御見送り被遊。東宮ハ九時三十分御出門被為在たり。○一位局も参り居れり。○兩宮ハ東宮奉送の後御内庭ニて松露等御採集被遊、御裏門より海岸づたひニて十時半還御被遊。○先月より雇入たる谷中某第一國民軍として来る廿四日より召集せられたるニ付、今月分の俸給其他ニ特ニ兩宮より金十五円之手当を賜ハる。○午後岩崎艶子・野崎かね子・村岡富代の三名へ衣服代其他として岩崎へ百円、外兩名へ各七十五円宛を賜ハる。○夕刻斬髪す。「受信」寿栄子・治子及杉翁より書状各一通到来。

二十一日 土 午前無事。正午寿栄子及治子ニ書状を出す。○午後三時半より一位局伺候、四時過ぎ迄御対手を為シ五時頃退出す。○午前半晴、午後微雨後發。○今朝迪宮御洗腸無シに始メテ御便通被為在。○夜有川と囲碁一曲す。

二十二日 日 終日曇且微雨。○午前静岡県知事及当郡長伺候す。御都合にて拝謁無シ。○東京留守宅より小包郵便ニてジャム其他を送り来る。○午後二時半沼津停車場御着ニて東宮東京より還御ニ付、二時三十分兩宮御用邸ニ被為成、東宮二時五十分還御ニ付御奉迎被遊。三時半兩宮還御。○予ハ四時半再び御用邸ニ到り、同六時半御陪食を為シ、後チ玉突の御対手を為シ十時帰る。○東宮ニ今回大夫交黜一条ニ付種々言上せる事有りたり。

二十三日 月 今朝淳宮始メテ洗腸無シニて御便通被為在。○午前九時半御用邸ニ到り斎藤大夫と熟談シ、尚東宮ニ今回的一条及将来之事ニ付巨細縷々言上為ス事有りたり。正午半帰る。○午後三時より御用邸ニ再び到り、五時前二直ニ帰り候よふ迎ひの者来りたるニ付早刻帰りたるニ、淳宮御体温七度八分、其後引続き伺ひたる二三十九度也。依テ弘田御用掛ニ電報を發シ明日来る事を命す。

○今日中山侯爵東宮大夫ニ被任、齋藤大皇帝會計審査局長ニ転任之事弥発表す。実ニ遺憾之至り也。○箱根本陣石内弥平太来り、鮮鯛二尾を予ニ贈ル。直ニ一同ニて晩食ニ是を喫す。

二十四日 火 昨夜来淳宮御発熱、夜十時遂ニ四十度二分ニ達す。十二時頃より追々熱度御減退、今朝稍御軽快。○快晴。今早朝齋藤帰京す。○午前十一時頃弘田御用掛東京より来着、直ニ両宮を拝診す。○午後一時寿栄子へ一書を送る。

又静岡之興津鯛十五枚及当地の鯛でんぶを二桶鉄道便ニて留守へ送る。○夕景より迪宮御食氣御減退、御体温七度四分ニ達シ大ニ心配す。○明日御用邸より使夫一人帰京ニ付、同人ニ托シ洗濯品を留守へ届く。○東宮より両宮へリソング一籠を被進。「受信」杉翁より一書落手。

二十五日 水 今日両宮殿下御容体次第ニ御宜シ。聊か安心す。○弘田御用掛拝診す。○寿栄子より書状兩通、又八重子より端書九時頃落手す。○九時半より御用邸ニ到り東宮ニ拝謁シ、兩宮の御容体を申上ケ且ツ昨日被進品の御礼を申上く。○中山新東宮大夫午前十一時頃東京より来着、午後二時頃兩宮の御旅館ニ伺候す。迪宮ハ御睡眠中ニ付淳宮而已ニ拝謁す。○夕刻再び御用邸ニ到り三時半帰る。○夜寿栄子宛の書状を認む。

二十六日 木 今日兩殿下御異例次第ニ御宜シ。○昨夜寿栄子宛之書状今朝杉山某ニ托シ東京ニ送る。○午後中山大夫伺候、兩殿下ニ拝謁シ又種々献上品等を為せり。○三時過ぎ杉翁東京より来着。三時半頃より予同翁を旅宿世古ニ訪ひ、種々一身上及其他之要談を為シ五時半帰る。○午前寿栄子よりの書外寄通落手す。○今朝来寒氣大ニ加ハる。半晴。

二十七日 金 兩宮殿下次第ニ御宜シ。○午前九時半より御用邸ニ到り、杉翁ニ面会シ十一時帰る。○今日兩宮殿下御病後始メテ御刺身を差上く。殊之外御悅ニて有りし。○午後夕刻弘田御用掛及小原頼之帰京し、長田来着。○夕景在京都児玉資信へ書状を出す。○今日終日暖氣なり。○今年後十二時三十分之汽車ニて中山大夫帰京す。明後日再び来着之筈也。

二十八日 土 兩宮殿下御機嫌益々御宜シ。○午前寿栄子及山尾三郎より来書。

寿栄子及小児等明日より国府津へ旅行之由申来りたるニ付、予の注意電報ニて申遣す。○九時半より御用邸ニ到り十一時帰る。○午後丸尾候兩殿下ニ拝謁シ、後チ同人と共に御用邸ニ到り四時過ぎまで玉突を弄す。○午前半晴。正午前より西風起り騒シ。○丸尾侍従ハ明日帰京之筈。○夜寿栄子より電報到来。一同今夕国府津ニ赴き七時過ぎ無事ニ着せし趣也。「発信」在京都児玉資信へ一書を出す。

二十九日 日 兩宮殿下日々御宜シ。○朝忠勇頭彰会より予ニ辞令書を送り、予を同評議員ニ選任せる旨を申来る。依テ返書を発シ、公務多忙且ツ供奉出張中之故を以て之を辞す。○谷中甚之助より来書。○在国府津館之寿栄子へ電報を送る。○午後同人より来書。依テ直ニ返答を郵送す。○今朝来氣分稍悪シ。依テ午後早々より室ニ引籠り休養し、三時沐浴シ六時前御用邸ニ到る。今日新旧兩大夫東京より来着御陪食被仰付、予も被召たるに依る也。御食事後玉突の御対手を為シ十時前帰る。○今日終日西風強く吹き荒む。

三十日 月 「孝明天皇祭」午前齋藤桃太郎伺候、兩殿下謁を賜ひ且ツ御手つから同人ニ御物料(二百五十)を賜ハる。○十時頃御用邸ニ到り、中山大夫より兩宮殿下新御殿之図等を一覽す。十二時帰る。○午後飯島魁・留守宅重見及芝へ書状を出す。又三好鐘次郎へ履歴書を添へ書状を出す。右ハ明朝帰京之筈なる某屬ニ託す。○迪宮御病後始メテ御入浴被遊。○夕刻サラザン伺候す。「発信」夜芝及重見へ各一書を出す。

三十一日 火 午前九時半御用邸ニ到る。予と行違ひニて中山大夫兩宮殿下ニ伺候す。○九時頃寿栄子国府津より差出したる書状ニ接す。夜右返書を差出す。○今日寒氣殊甚しく午後より雹降る。終日曇天。○今早朝有川属帰京す。明後日帰京之筈。

二月一日 水 午前中在館。○治子及八重子国府津より出したる書状今朝落手。正午前寿栄子宛之書状と共に返書す。○午後二時頃より御用邸ニ到り、東宮ニ拝謁。のせ餅及栗実砂糖漬等をいたゞき、又中山大夫と玉突など弄シ四時半帰る。○夜食ニ桑野及岩崎へ牛肉をふれもふ。○夜桑野之室ニ到り雑談す。○今

日も寒氣殊ニ強シ。○朝杉翁より來書。

二日 木 昨夜來雨降り近傍積雪す。○午前東京留守宅重見より來書。芝よりの書状を封入す。○午前河野當郡長、午後又警察署長來り、沼津町麻疹之詳況を報告す。○午後早々御用邸ニ到り東宮ニ官房にて拜謁シ暫時雜談之御対手を為シ、後チ二時半過ぎより一位局兩宮殿下ニ御機嫌伺ニ來る由ニ付直ニ歸る。三時一位局伺候、種々玩弄品を献上シ、又予等一同ニすしを贈る。四時過ぎ退出す。○有川屬東京より歸參す。

三日 金 午前九時御用邸ニ到り、中山大夫及桂主事へ此度沼津町之麻疹流行之件ニ付、兩宮殿下今後之御方針云々及兩宮殿下御附添人一同へ手當云々の義を協議シ、十時半歸り直ニ其實行ニ着手す。○桑野御用掛十二時半之汽車にて歸京す。○十一時頃桂主事東宮之御使を兼ね伺候す。兩宮殿下賜謁。○正午過ぎ在国府津寿榮子より來書。○午後二時半東宮行啓被遊、三時半迄兩宮殿下之御側にて種々御対手被遊。○三時過ぎ岡侍医局長伺候賜謁。四時前東宮ニ扈從して退出。同人ハ今日朝來り、今夕再び帰京之筈。○今午前中微雪、午後より日光洩ル。〔発信〕夜在国府津寿榮子ニ返書を出す。

四日 土 午前十時頃御用邸ニ到り桂主事ニ伝言を依囑す。同人ハ今日零時五十分沼津発之汽車にて帰京す。○正午過ぎ弘田長より麻疹当地ニ流行ニ付、兩宮殿下御軀地云々の事電報シ來る。依テ直ニ御用邸ニ到り中山大夫と協議之末、弘田ニ至急当地へ出張の事を申遣す。○兩宮殿下午前午後共海岸及田甫を御散歩被遊。○今朝屬官其他一同へ手當金を下賜す。○午後飯島魁より來書、過日之返書也。○今日近來始メテ日光漏る。天氣靜穩。○夜十時過ぎ弘田長東京より來る。依テ種々麻疹流行ニ付兩宮殿下御進退之事ニ付協議シ、遂ニ二十二時ニ至る。午前一時就眠。

五日 日 早朝在保養館なる中山大夫へ書面を遣し、出勤懸ケ當御旅館へ立寄る事を申遣す。九時半中山大夫伺候。依テ弘田と三人にて麻疹ニ對する方針を定メ、暫時病勢之消長を見、其上にて進退を定むる事ニ決す。○今御屋兩宮殿下ニ始メテチキン、プロセスを進す。○午後一時前より兩宮之御供を為シ御用邸

ニ到る。東宮ニ御対面、二時還御。○夜麻疹一条ニ付中山大夫を保養館ニ訪ひ、九時半還り協議之結果桑野銳ニ電報兩通を出す。○午後寿榮子及外一通書状を出す。○夜丸尾侍從及錦小路主事東京より着す。又寿榮子より小児等と共に同無事帰京之電報到來。

六日 月 午前九時半御用邸ニ到り、中山大夫ニ協議する処ありたり。十二時歸る。○午後當県警部長安河内麻吉來り、麻疹の報告を為す。又サラザン伺候す。○三時過ぎより御用邸ニ到り五時過ぎ歸る。○今日西風強く兩宮殿下終日御在館、御外出無シ。

七日 火 午前東京寿榮子より來書。○同九時半より兩宮ニ供奉シ田甫方面へ到り十時半歸る。○十一時頃河野駿東郡長來り又安河内警部長も來り、麻疹一件ニ付報告す。○正午過ぎ御庭先きにて兩宮殿下之御遊戯の処を八枚計り採影す。○午後三時より御用邸ニ到り、夜六時半御陪食シ九時歸る。○昨夜來少々予風邪之氣味にて困却せり。○昨夜長田帰京、小原來着交代す。

八日 水 今朝安河内警部長より來書。又寿榮子より一書來る。○丸尾侍從伺候す。○十一時より兩宮一位局ニ被為成、十二時半還御。○午後二時桑野御用掛東京より歸着す。○夕刻入浴シ、早くより寝ニ就き温氣を取る。

九日 木 昨今寒氣殊ニ烈シ。○留守宅及芝より來書。○午後二時頃より御用邸ニ到り、明日帰京ニ付殿下ニ拜謁、御用を承り夕景歸る。○正午前西郷侍医伺候、兩宮賜謁。

十日 金 今朝寒氣最も強シ。○本多侍從來る。○種々留守中之注意を申付置き、十一時半御用邸ニ到り、杉翁と同車にて停車場ニ到り、十二時五十分発之汽車にて東京ニ向ふ。六時頃東京着、直ニ歸家す。一同無事にて安心す。電話にて御所へ今夜着之旨を申上く。

十一日 土 〔紀元節〕午前九時宅を出て賢所へ到り、皇靈殿へ皇太子殿下の御代拝を奉仕シ、十時半御内儀ニ到り姉小路權典侍ニ面會、東宮よりの御言葉及兩宮殿下の御近状を申上ケ、次て侍從職ニ到る。偶々伊藤侯・徳大寺侍從長・桂總理・田中宮内大臣・松方伯・岩倉幹事其他來集、共ニ雜談シ、正午豊明殿

二時陪宴シ二時前帰家。二時青山御所御内儀ニ到リ、妃殿下及光宮ニ拝謁シ、又万里小路二種々要談を為シ、三時過ぎ退出鳥居坂ニ到リ、夕刻帰家す。鳥居坂ニて前島弥ニ遭遇す。

十二日 日 午前洋服屋大金を呼び東宮并二兩皇孫殿下之御服を申付ケ、又予も一着を注文す。○赤坂区長近藤政利、徴兵慰勞義会之件ニ付來談す。○午後二時伊藤侯を靈南坂官舎ニ訪ふ。不在。依而転して杉翁を訪ふ。然るに同翁風邪之趣ニ付辞して帰る。○五時頃より再び外出す。○幸一及小六自転車ニて程ヶ谷前島ニ到る。夕景帰る。

十三日 月 終日休養す。○午後山尾翁來訪。

十四日 火 午前十時出勤シ、始メテ桂主事より、頃日来沼津ニて麻疹流行之件ニ付弘田長より岡侍医局長へ嚴談シ、其結果昨夕同人及橋本綱常會議を催し、遂ニ東宮及兩皇孫殿下ニ沼津より御転地之事を願ひ出たる旨を聞く。予ハ医者等之此挙ニ出てたる真意を察し甚タ不快。雖然今更如何共難為。依而桂と相談し大磯及鎌倉之各別荘ニ付使用為る可キ分を取調ふ。○十一時頃より杉翁を訪ひ、如雪牧牛之画幅を一覽す。是ハ斎藤桃太郎ニ贈らんか為メ豫テ同翁ニ撰択を依頼為し置たる者也。帰途東宮職ニ立寄り、又午後も出勤す。○四時頃より再び外出す。○夜沼津桑野より來電。依て明朝帰參之事を返電す。○夜諸方へ電話ニて告別す。○山尾翁來訪。

十五日 水 午前八時三十分新橋発之汽車ニて沼津ニ向ひ一時半沼津着、直ニ御用邸ニ伺候シ宮城よりの被為進品等を御披露シ、又今回之御転地之義ハ又々暫く御見合せと為りたる由を聞き、其医師等の無定見只々驚クニ堪タリ。醫師等之我儘只是ニ不止、実ニ憤慨之至り也。四時前帰り兩宮殿下ニ拝謁。余程御待兼ねニて有之、予の帰參を殊之外御悦び相成り、只々感涙之外無シ。○夜淡近ニ托シ留守へ一書を送る。○天気晴朗。

十六日 木 朝児玉資信京都よりの書状落手。○錦小路公用ニて來談。○午後二時頃より御用邸ニ到り三時半帰る。○今日も西風強く為其兩殿下家外之御運動不被為在。

十七日 金 今日も西風引続き吹荒ミ兩殿下遂ニ御外出不被為在。○午後一時半洋服屋大金來り兩宮之御直シ服を持參シ、又予の仮縫も試む。○二時前土方伯伺候、引続き又東宮も被為成、四時前還御。東宮より兩宮ニ夜梅之菓子^{梅子}を被為遊、又供奉員に海苔を賜ハる。○午後甘塩興津鯛を二籠留守宅へ、又一籠在大磯伊藤侯夫人へ送る。留守へ右之趣電報を出す。○五時より御用邸ニ到り六時半御夕餐ニ陪シ、十時前帰る。土方伯も同席す。

十八日 土 午前弘田御用掛伺候す。同人ハ昨夜東京より來りたる也。○家書一通到來、忠太郎よりも一書來る。○午後看護附之女中一人ジフテリヤの恐れ有之哉の医士之診断ニ依り、直ニ沼津町室賀病院へ入院せしむ。然るに全くヘントウ腺カタルの由ニて安心す。然シ先般弘田等麻疹一条ニ付御転地云々、又今回ノ一件等、実に醫師等の不可信拳動言語ニ絶せり。○午後二時半より御用邸ニ到り四時過ぎ帰る。○十二時半錦小路來り斎藤前大夫へ一同より贈品の件ニ付相談、一々指示し置く。○今日天氣殊ニ晴朗、兩宮久振りニて御近傍を御運動被遊。○川村鐵太郎より來書。「発信」夜留守へ書状兩通を出す。

十九日 日 午前弘田長二面會シ、過般來麻疹当地ニ流行ニ付三殿下御転地申請云々の件ニ付詰問せり。然るに同人之答弁甚タ不得要領、実ニ醫師等の拳動男子之恥る所也。○予昨夜來風邪之心地ニて且ツ喉頭を悩めるニ依り、今朝より御前へ出勤を憚り、午後より自室ニ引籠り医員長田の治療を受く。○午後雜仕杉山らいなる者又咽喉を悩ミ、遂ニ世古ニ転宿せしめ療養なさしむ。○伊藤侯より過日贈り物之礼狀來る。○今日ハ近來ニ珍しき寒氣ニて今朝御座所も四百度ニ下りたる由也。

二十日 月 昨日來之風邪ニて本日ハ終日自室ニ引籠り療養す。○午前西郷侍医明日より交代帰京之趣ニて伺候す。○本日川村鐵太郎・忠太郎及児玉資信へ各返書を出す。○午後一時頃より兩宮殿下御用邸ニ被為成、二時半還御。

二十一日 火 本日ハ最早快癒之心地なれ共未夕扁桃腺ニ義膜残り居るとの趣を以て、醫師より之勸告ニ依り一日自室ニ引籠り加養す。○朝八重子へ過日東宮より賜ハリたる干海苔巻箱を贈る。午後同人より來書。○寿栄子より午前來書

午後返事を出す。○在秋和田芳助より来書。○夕景山尾翁へ一書を出す。又杉翁より来書、如雪懸幅云々の事也。○夕刻此方の扁桃腺義膜脱落シ、全く快癒シ安心す。○午後二時半第三艦隊司令官海軍中将片岡七郎其他幕僚七名伺候シ、両宮殿下賜謁。○サラザン伺候す。○天気晴朗始メテ鶯声を聞く。

二十二日 水 本日より出勤之筈ニ付午前十時斬髪、次て沐浴并ニ衣服悉く相更メ十一時過ぎ御前ニ出でたるに、僅か両三日拝謁を為さゞりし而已なるに両宮殿下頗る御なつかしく被思召、頻りと予之側ニ御出被遊、予ニ両殿下種々の御愛想等を被遊。実ニ感銘之至リニ不耐也。午後一時頃より御用邸ニ到り東宮ニ拝謁。同殿下今日も両宮之許ニ被為成度き思召ニて有之しか、余り繁々ハ不御宜旨を以て御断り申上く。○朝治子より来書、又留守より写真機械を修繕為シ届ケ来る。

二十三日 木 午前秋和田芳助へ書状を出す。○午後一時半より御用邸ニ到り杉翁ニ面会シ、五時頃帰る。○午後両宮東方の山麓ニ御運動被遊、御持帰りの摘草を東宮ニ被為進。御運動中東宮ニも同所へ被為成、共ニ暫く御遊被遊。○夜桑野銳予か室ニ来り十時過ぎ迄雑談す。

二十四日 金 迪宮昨日頃より腎部ニ腫物相生シ、為其御悩ミなれとも格別之事ハ無之。○留守より書状到来。○午前九時半より御用邸ニ到り杉翁ニ面会シ、両宮殿下御教育主任後継者及如雪之画幅之件ニ付暫く内談シ、正午帰る。○夜寿栄子及治子へ書状を出す。

二十五日 土 今朝桑野帰京す。十一時頃麻疹流行云々の事ニ付錦小路来談。同人も十二時半の汽車ニて帰京之筈。○十二時半御用邸ニ到り中山大夫二面会、折柄片山侍医も同席、予の麻疹ニ対する意見を述べ、後チ玉突を弄シ三時半帰る。○留守より白井稻及芝よりの書状を送り来る。依而夕景留守へ書状を出シ、共ニ芝へも一書封入送致す。○迪宮殿下御腫物幾分か御宜シ。併シつまらぬ迄に神経ニかけさせられ嘆息之外之レ無シ。○天気好晴静穏。

二十六日 日 迪宮殿下今以て腫物御悩ミなれ共稍御宜シ。○午後長田医員帰京し交代として小原医員来着。○五時半御用邸ニ到り六時半東宮ニ陪食す。後チ

御雑談之上玉突など之御対手を為シ九時半帰る。桂主事東京より来着す。○終日寒風吹き且ツ降雪罪たり。併シ積る迄ニハ不至。

二十七日 月 午前寿栄子及八重子并ニ山尾三郎、又午後杉翁より来書。○九時頃より御用邸ニ行き桂主事二面会、種々要談を遂ケ正午帰る。○午後二時片山侍医を呼び迪宮殿下之腫物拝診せしむ。○夜来降雨、終日不歇。

二十八日 火 今日暖如和春。○午前九時過ぎより淳宮海岸ニ被為成、予も後より到り十時過ぎ還御。迪宮ハ御腫物未タ不癒、御邸外之御運動不被為在。○十時半より御用邸ニ到り片山侍医二面会。迪宮之御腫物之事ニ付相談シ正午帰る。○午後三時半片山侍医伺候拝診す。○朝寿栄子より来書。夜同人及八重子へ返書を出す。○夕刻洋服屋大金来り、両宮の御春着洋服を各一着注文す。予の新調モーニングコートを大金持参す。

三月一日 水 午前十時前片山侍医伺候。迪宮拝診の上、御腫物を切開す。随分御苦痛ニて被為在たれ共格別之事無之、予御後にてりんごを差上ケ直ニ御機嫌相直りたり。○夜八時頃、宮内大臣田中より予ニ都合次第帰京可致旨電報ニて申来る。依テ明日正午之汽車ニて帰京之旨返答す。

二日 木 午前迪宮御腫物御切開予後之経過を相伺ひ、後チ御用邸ニ到り東宮ニ拝謁、御暇乞之御機嫌を伺ひ、午後十二時五十分沼津を発シ、同五時半頃着京。新橋停車場ニ田中宮内大臣よりの使来り居り、予ニ直ニ靈南坂伊藤侯爵之官舎ニ到り、同侯ニ面談之上宮内大臣之官舎ニ到らん事を大臣の命ニて申伝ふ。依テ予ハ直ニ靈南坂ニ到り伊藤侯二面会ス。勇吉而已同席なり。侯切ニ予ニ引続き両皇孫殿下御養育可相勸旨勸告せらる。雖然是レ不容易重大之責任なり。依テ予も大ニ弁シ遂ニ結局ニ不至、何レ沈思熟考之上確答可為旨を答へ置き、後チ勇吉と共に晚餐之饗を享け、田中大臣之官舎へ行く事ハ断り、八時半頃帰宅す。皆々無事也。只、治子過日来之風邪未タ不癒、甚タ心配す。

三日 金 午前八時半斎藤桃太郎を訪ひ種々要談を遂ケ、宮内省ニ行き田中大臣ニ面談。伊藤侯と会谈之始末を述べ、同人よりも頻りと予に両皇孫殿下御養育之事を勸告なしたるニ付、予の意見をも申述へ、又斎藤ニ審査局ニて面会シ、

正午一旦帰家。午後青山御所ニ参候。偶々妃殿下光宮ニ御乳を差上ケられたる時ニ付、其方へ参いれとの事故罷出たるニ、妃殿下光宮至極御機嫌克く、御乳の後光宮御入浴ニ付其御様子を可伺との御沙汰ニ付、御入浴を拝見為シ、終テ妃殿下之御座所ニ参し、過般沼津ニテ採影なしたる両皇孫之御写真を御覽ニ入れ、其説明及種々御近情を申上ケ四時頃退出。次テ伊藤侯を靈南坂ニ訪ひ、両皇孫殿下御養育を予弥御受申ニ付テハ、予より可申出条件之内ニ大要件を同侯ニ告ケ、其承諾を受ケ、同侯自身ニ其文案を認メ、予ニ与フ。夕景帰家。然るニ夜八時頃再ひ侯より電話ニテ予を呼びニ来る。依テ直ニ到る。右ハ有栖川宮の御意見未定、同宮来ル十四、五日頃御帰京、夫れ迄現今の儘ニ致し置き度との事也。其他綴々閑談し十時帰家。

四日 土 昨夜九時頃宮内大臣夫人死去之旨、伊藤侯と談話中電話来り報す。○終日風雨、寒気殊ニ甚し。○正午頃より外出す。○午前田中宮内大臣へ弔問ニ到り、又杉翁へ立寄り正午頃帰家す。○桂頼三来訪。

五日 日 午後一時頃より青山御所ニ到り万里小路二面会シ、三時頃帰る。○五時過ぎ斎藤桃太郎来り、夕食を共ニし、且ツ同人ニ如雪之画幅を贈る。十時頃同人去る。右ハ予か近来大ニ同人ニ世話ニ為りたる報酬之微志なり。○今朝より幸一及小六、桂頼三と共に横須賀へ遊びニ到り、晚景帰家す。

六日 月 午前斎藤桃太郎を同人ニ如雪の幅を与シ、次テ杉翁を訪ひ、十一時帰家。正午頃再ひ外出す。○午後寿栄子田中へ弔問シ、又本願寺ニ到る。

七日 火 午前兼常貞成来り、今回毛利万子、武者小路と結婚ニ付、右願書ニ予宗族として調印申来る。依テ直ニ捺印シテ渡ス。午後十二時半新橋発之汽車ニテ沼津ニ向ひ、夕五時半同所着。直ニ御用邸ニ到り東宮ニ拝謁シ、七時頃帰る。両宮ちよぶ御休ミ之折柄ニ付御床ニテ拝謁し直ニ下る。

八日 水 午前十一時頃御用邸ニ到り中山大夫ニ面会、要談を遂ケ十二時帰る。○小原医員帰京、長田同交代として来る。○正午より両宮ニ扈從、香貫之麓を散歩シ、ツミ草等を為す。今日ハ御野ニテ御間食を遊ス等ニテ其御用意を為したれ共、天盛り風寒く、終に其儘にて還御被遊。○夜桑野予の室ニ来り、種々

要談を為ス。○八重子より画端書来る。○柳原早蕨典侍過ル五日葉山より当地へ御機嫌伺ニ来り居り。今朝出発帰葉之由ニ付、朝八時沼津停車場ニ赴き同人を見送る。八時四十分発車せり。

九日 木 午前十一時半東京留守宅へ郵書両通を出す。○午後一時頃田内武官より書状を以て、露総退却を始め我軍大捷利之旨、長岡參謀次長より申来りたる旨報す。實に神州之万歳欣喜雀躍之至リニ不耐。○同二時半東宮当御旅館ニ被為成、両宮殿下へ御対面。今回御注文なりたる木馬二頭を被為進、四時前還御。○淳宮夕刻より頻リニ御あくびを被遊、御体温も漸く六度一分ニ付、夜長田医員を呼び油断等之無之様種々注意を与ふ。

十日 金 午前十時前御用邸ニ到り杉翁二面会シ、十時三十分一旦帰り、今日始メテ両宮殿下ニロースト、ビーフを差上ぐるニ付、其御様子を拝見し十一時過ぎ再ひ御用邸ニ行東宮殿下ニ拝謁す。○三島侍講伺候、作州津山之産初雪なる軽焼餅を献上す。○午後一時より迪宮殿下ニ陪シ田畝ニ到り二時還御。夫れより余ハ再ひ御用邸ニ到り三時十五分帰る。○今日溫暖稍春色を覚ゆ。○夜桑野予か室ニ来り、弥奉天陥落撫順占領之報御用邸迄御申来りたる旨を語る。實ニ我軍之智勇只管感嘆之外無之、益々神国武威興輝を祝賀するのミ也。

十一日 土 午前十一時より両皇孫殿下御用邸ニ被為成、今回我軍奉天附近大捷の御祝賀を父宮殿下ニ被申上、正午過ぎ還御。予供奉す。○内匠寮より技手川面某来り、御旅館を実測す。○三時過ぎより御用邸ニ到る。今夕今回之祝捷ノ為メ五時半より立食を賜ハリ、予も被召たるニ付其儘滞り居り、陪宴之後御玉突之御對手等を為シ、九時過ぎ帰る。御宴席ニテハ殿下之御食卓ニ予と中山大夫陪せり。○今日東宮より海苔及魚干物を賜ハる。○午前治子及八重子へ輕焼煎餅初雪なる者(作州津山名産)を送り、又兩人へ書状を出す。

十二日 日 朝寿栄子鎌倉より出したる書状を落手す。○午後常宮周宮両殿下よりの御使として園伯伺候。両宮よりの被進物等持参、又此方よりも伯ニ賜ハリ物ありたり。○午後三時半岡侍医局長伺候、賜謁。○留守宅へ鯛及あじ之干物二籠を送る。○夜属官之事務室ニ到り料理人立花と雑談す。○終日外出せず。

○今晚東宮より御陪食ニ召されとも御用都合にて辞す。○夜、留守宅へ一書を認む。

十三日 月 午前十一時より川村伯未亡人を大木伯別邸^(遠音)ニ訪ひ、正午帰る。御上り合せのりんご一籠を持参す。午後二時過ぎより御用邸ニ到り東宮と種々御対談申上ケ、殿下ハ頻りと余ニ皇孫御養育之主任たる可き事を御勧め被遊。雖然是容易ニ御答可申上事柄ニ無之、程克ク御対手申上ケ、五時過ぎ帰る。○朝疊後雨。○今朝又一書を寿栄子ニ郵送す。○夜万一此方引続き両皇孫殿下之御養育を御引受せざるを得不得之場合ニ用意の爲メ其条件を起草す。

十四日 火 朝留守宅より書状兩通到来。○午前十一時より両宮御運動之爲メ松林及街道等ニ被爲成、予供奉す。正午還御。○午前サラザン伺候、兩殿下賜調。○今朝苦茶を喫シ、爲其終日悩む。○夕刻六時十五分御用邸ニ到り、同三十分東宮ニ陪食し、後チ玉突の御対手を爲シ九時半帰る。○今夜桑野家内当地へ来りし趣にて、同人夜十時頃より世古ニ到る。○伊藤侯より来る十七日故井上毅之十年祭挙行ナスニ付来会ス可キ案内状来リタレトモ、旅行の趣を以て断りの返書を出す。

十五日 水 午前寿栄子より一書、又午後在鎌倉治子より書状到来。又幸一よりも自転車之事ニ付来書。○朝寿栄子及他一書を郵送す。○山田仙三より同人解雇を願出つ。夜同人を呼び懇々説諭す。○午後一時より御用邸ニ到り、三時過ぎ退出ス。兩宮明日御告別御参之件并ニ本年迪宮御袴着云々の事を大夫ニ談す。○帰途丸尾侍従之病気を其旅宿ニ訪ひ、四時過ぎ帰る。○川村未亡人及花子伺候す。○今日御昼御飯ニ兩宮へ始メテ米國産アーレンジを差上ク。頗る御悦ニて有りし。

十六日 木 午前十時頃より御用邸ニ到る。然るに昨夜より来電、妃殿下昨今軽微なる御寒冒之由にて、東宮明日御帰京之件も爲其未定、依テ今正午之汽車にて中山大夫帰京之筈との事也。○今午後二時頃より両宮殿下御用邸へ御告別ニ被爲成筈なりしか、午後より降雨ニ付余参邸、御断り申上ケ置く。一位局ニも面会す。○予も来ル廿一日御代拜の命を蒙り居るニ付、都合次第明日供奉にて

帰京ス可ク、夕刻より其準備を爲ス。○夜九時半頃桑野御用掛御用邸より帰り、東宮御明日御帰京御治定之旨を告ぐ。依而予も供奉爲ス事ニ決ス。

十七日 金 朝九時頃兩宮殿下、東宮御奉送之爲メ御用邸ニ被爲成、予御見送り申上ケ、直ニ予ハ停車場ニ到る。同十時東宮御着。同時発之汽車にて午後二時半新橋着。次て青山御所ニ到り、四時前帰家し、再ひ外出。伊藤侯を靈南坂官舎ニ訪ふ。然るに同侯ハ今日故子爵井上毅十年祭ニ赴かれたる由にて不在ニ付、予来訪之旨を申述へ置き、更ニ再々帰家す。東宮ハ新橋停車場より直ニ宮城へ御参内、五時頃還御被遊たり。

十八日 土 今日光宮初御参拜并ニ初御参内ニ付、午前九時前出勤、御祝詞申上ク。一旦帰家。午後四時より再ひ参殿、御祝宴之立食を賜ハる。東宮而已出御。妃殿下は御異例にて出御無シ。七時半帰家、再ひ外出す。

十九日 日 夕刻、山尾三郎及福原清子来訪。

二十日 月 今朝十時発臨時汽車にて東宮沼津へ行啓ニ付同停車場へ奉送し、帰途伊藤侯を訪ひ面会シ、予之身上ニ関する問題の今日迄之経過^(トキ)聞き、十一時頃辞シ、又古谷ニも面接シ、転じて有栖川宮に伺候シ、折柄御不在ニ付杉翁を訪ふ。是又不在、依テ直ニ帰家す。午後毛利御後室・古谷鶴子・妙好殿及隅田英次家内等を歴訪し、妙好殿を除く他ハ皆面会シ四時過ぎ帰宅なしたる処、有栖川宮より電話にて召されたるニ付直ニ伺候す。斎藤桃太郎も居れり。同宮ニ拜謁、初メテ今度丸尾侍従をも独逸へ御召連れの事を承り甚々驚愕。依テ縷々予の意見を開陳す。雖然最早後之事にて何の詮も無し。遺憾之至り也。只々長大息之外無シ。当今ハ何事も皆如是し。七時前帰家す。

二十一日 火 昨日来風雨、夜降雪となり、今朝一面の銀世界となれり。然れ共忽ニして消へ午後二時頃より歇む。○午前九時宅を出て賢所ニ参シ(仮御殿)、東宮の御代拜を奉仕シ、十一時帰家し再ひ外出す。

二十二日 水 午前九時三十分宅を出て新橋停車場ニ到る。今日妃殿下及光宮沼津へ行啓ニ付、予も供奉す。十時同所発、二時三十五分沼津着。同三時兩殿下御用邸へ御安着。東宮・迪宮及淳宮御玄関迄御出迎ひ被遊たり。予ハ四時頃帰

る。○今日ハ妃殿下の供奉にて心遣ひも薄く、氣候も温和、且ツ御召車にて臨時汽車也。旁殆と遊山之心地にて旅行せり。○迪宮及淳宮兩殿下ハ至テ御機嫌克く、何より難有く存せり。○夕刻留守宅より幸一自転車之事ニ付來電。直ニ許可の旨返電ス。○早朝丸尾侍從來訪。今回同人洋行の事ニ付種々相談を受ケ、予も又注意を與へ、且ツトロンク一箱を貸与す。

二十三日 木 早朝寿栄子より來書。直ニ返書す。○山田仙三ニ今の内帰省可然旨申諭す。○十一時より御用邸ニ到り、東宮及妃殿下ニ拜謁。後チ三田と玉突を弄シ、十二時半帰る。午後一時頃より迪宮之御供を為し田疇ニ到り二時帰る。○午前半晴、後曇。○夕刻上酒送付云々の事ニ付、留守宅へ電報を出す。

二十四日 金 午前杉翁へ一書を出す。十時半より御用邸ニ到り、東宮昨日來御異例御仮床ニ被為在ニ付、御機嫌伺ニ出す。十一時御前ニ出づ。折柄妃殿下も御側にて種々御物語を申上ケ、且ツ妃殿下より今回行啓ニ付、御みやげとして反物并ニ目錄二十五円を賜ハる。其他兩宮殿下御附添の面々一同へも賜ハり者ありたり。十二時過る頃帰る。午後二時より中山大夫の病氣を保養館ニ見舞ひ、帰途御用邸ニ立寄り村木と玉突を為シ全勝。四時半帰る。○夜來降雨、正午頃より歇む。○午前丸尾侍從東京より御暇乞ニ來り、予東宮之御側にて面會す。同人ハ來ル一日有栖川宮ニ隨行、渡歐なす筈也。○夜留守宅へ一書を出す。

二十五日 土 午前曇。○加藤侍医伺候す。○留守より和酒沢の鶴一打送り來る。一昨日電報にて申遣し置たれハ也。○淳宮之御体量を測りたるに、先月同日より御増加百三十目にて総量三貫五百五十五目也。近頃大ニ御成育、歡喜ニ不堪。○十一時より東宮之御馬車を借用し、兩宮江の浦迄御運動被遊。十二時半還御。今晚迪宮御夕食不如平常、聊か心配す。○午後二時より御用邸ニ到り兩殿下ニ拜謁。妃殿下ニ昨日之賜り品之御礼を申上ケ、四時過ぎ帰る。○今日大ニ春暖を覚ゆ。○夜家書一通を認メ郵送す。○今日より喜美名古屋ニ到る。

二十六日 日 朝寿栄子及幸一より來書。夜寿栄子ニ返書を出す。○十時より御用邸ニ到る。昨夜東宮御熱度三十九度一分ニ達し、今日橋本博士及ベルツ東京

より來診。岡侍医局長ハ昨夜より來り居れり。皆々ニ面會之上三田と玉突を弄シ全勝す。十一時帰る。途中御用邸御門前にて兩宮殿下之御散步より還御に出會シ、御供して帰る。○午後二時沼津人民祝捷會を催し、一同御旅館裏海岸ニ集合。各種々の旗を持ち、又青年樂隊も五、六組樂を奏し、一同整列万歳を唱ふ。兩宮御裏門前ニ被為成、一同の万歳を唱へる時ハ共ニ兩手を被為上、同く万歳を御唱へ被遊、又一同敬礼を為したる時ハ御帽ニ手を上ケさせられ御受ケ被遊、人民一同感喜。又兩宮も至極御満足ニ被思召たり。○夕刻芝より來書。

二十七日 月 午前十時頃御用邸へ東宮御異例之御機嫌伺ニ出づ。今朝未夕御体温八度にて御抄々しからず。午後二時再び御用邸ニ到る。折柄桂藩太郎召されて東京ヨリ來着。有栖川宮より目下同宮御渡歐之期差迫り、且ツ未夕予ノ後繼者容易ニ撰定出來兼ねるニ付、乍苦勞同宮歐洲より御帰朝迄之処、尚引続き予ニ兩皇孫殿下ニ奉仕御養育可致旨を申伝へらる。予、右ニ付てハ意見無きニ非れ共、今更無詮術。○正午頃留守より竹之子二十本送り來る。女中一同へ分配す。○夜此度再び兩皇孫殿下之御養育を申付かりたるニ付、右ニ對する意見書を認む。又桑野予の室ニ來り後來之事等を談す。

二十八日 火 朝寿栄子より兩通及治子より來書。午後杉翁よりも來書。午後二時半より一位局伺候、六時前退出。○朝十一時半頃岡侍医局長伺候、種々要談を遂く。○夕刻斬髪す。○朝東京留守宅へ程次第明後日帰京之旨電報す。○六時山田仙三東京より帰任。鏡及牛肉佃煮を持參す。又寿栄子よりの書状も添へり。

二十九日 水 午前九時半より保養館ニ到り中山大夫ニ面會シ、今回兩皇孫殿下御養育之義、來ル八月即チ有栖川宮御帰朝迄御請なしたるニ付、其条件を認メ同人ニ示シ、後チ御用邸ニ立寄り本田侍從を以右御請之事、并ニ明日上京請暇之儀東宮へ申上ケ御許可を得たり。○午後一時半より御用邸ニ到り妃殿下ニ拜謁シ、兩宮殿下之御近情を申上ケ、尚今後之予の意見を具陳シ、又桂主事并ニ橋本博士ニ面會、種々談笑爭議無尽、五時頃帰る。○正午寿栄子より來書。喜美よりの之書状も封入せり。○今日余程暖氣を覚ふ。○有川厲今朝より帰京。

三十日 木 午前種々上京之準備を為シ、十時半より両宮殿下の御昼餐を拜見し、十一時より御用邸ニ到り、東宮及妃両殿下ニ拝謁、御暇乞を申上ケ、十二時退出。沼津停車場ニ赴き、同五十分発之汽車ニテ上京す。夕五時着京、六時頃帰宅。一同無事、大ニ安心す。

三十一日 金 午前八時半丸尾侍従来訪。同人今回歐洲行ニ付向後之事等種々閑談す。同人九時過去ル。予八十時前伊藤侯爵を靈南坂官舎ニ訪ひ、又有栖川宮及田中宮内大臣を歴訪し、今回予暫く迪宮淳宮兩殿下を御預り申ニ付てハ実ニ不容易重大之責任ニ付、其辺之旨意を述べ、正午頃帰宅す。午後在家。○正午^(大庭)菊池学習院長を訪ひ、両宮殿下の嫗母周旋一条之事を依頼す。

四月一日 土 午前九時過ぎ宅を出て新橋停車場ニ到る。今日有栖川宮及随員一同渡欧ノ為メ出発ニ付見送りの為メ也。同十時有栖川宮の十時発臨時汽車ニ便乗し横浜ニ到り、汽船プリンス・ハインリッヒ号ニ行き、有栖川宮及妃兩殿下を奉送し、又随員齋藤・伊藤勇吉及丸尾等ニ告别シ、十二時前横浜停車場ニ戻り、同階上ニて昼餐を喫シ、午後一時三十七分発之汽車ニて程ヶ谷ニ赴き前島弥を訪ひ、同所を四時九分發シ五時過ぎ帰京す。今日終日風雨、一同大ニ困却す。

二日 日 午前山尾翁を鳥居坂ニ訪ふ。一同不在ニ付直ニ帰宅す。午後内居。○夜福原又市来訪。

三日 月 「神武天皇祭」 午前九時宅を出て皇太子殿下御代拝として賢所ニ参シ、同十時御代拝を奉仕シ、次て御内儀ニ到り柳原典侍ニ面会。正午頃帰宅す。○午後山尾翁・同亀子・酉子及梅子来訪。

四日 火 午前在家。午後零時三十分新橋発之汽車ニて沼津ニ向ひ、五時半同所着。直ニ兩宮殿下御旅館ニ帰着す。両宮ニ拝謁し七時過ぎ迄御対手を為す。○今日平沼駅より横浜の山下龜太郎夫婦と同車す。同人等ハ大磯ニて下車、招仙閣ニ到りたる也。

五日 水 午前九時半より御用邸ニ到り、両殿下ニ拝謁シ種々御物語を為シ、十一時半帰る。今日十二時半沼津発之汽車ニて桑野御用掛上京す。○二時頃光宮

御出被遊、暫く御遊びの上三時頃還御。○弘田御用掛東京より伺候す。同人ハ今日再び帰京せり。

六日 木 午前九時頃より両宮殿下ニ供奉シ海岸ニ到り、次て光宮殿下之御許ニ御供致シ、十時過還御被遊。○十一時より予御用邸ニ到り昨日之被進及賜り品の御礼を申述へ、十二時帰る。○午後二時頃龜井静岡県知事・同警部長伺候。

当御用邸近傍ニ麻疹患者一名發生之旨告ケ来り、同人と種々協議す。後チ又御用邸ニ行き、中山大夫と麻疹一条及弘田御用掛より同人辞任云々の一条等熟識シ、四時帰る。○今朝両宮より万里小路幸子病氣御尋ネトシテ鶏卵を賜ハる。

○夜寿栄子へ一書を出す。○午前曇時々微雨、午後より降雨。夜ニ入り不歇。○夜寿栄子へ一書を出す。

七日 金 午前九時半御用邸ニ到り万里小路幸子へ病氣見舞として西洋花ヒヤセンス壺鉢を贈る。十一時半帰る。○東京より和酒半打運送シ来る。○午後一時より妃殿下海浜へ御遊歩被遊由ニ付、同時刻予も両宮殿下之御供を為シ海岸ニ到り、二時過ぎ迄御一同共々に御散步被遊。最も御慰みに相成りたる様見上ケたり。両宮殿下ハ二時半還御。○夕刻田内武官よりねぎぬた其他贈り来る。直ニ返書を出す。○三時頃沼津裁判所監督判事橋爪米重伺候、予面会す。○夜

寿栄子及其他一通郵書送発す。○今日朝曇且微雨、午後晴天。頓ニ暖氣を加ふ。

八日 土 午前杉翁より来書、且ツ西京よりの菓子二箱贈り来る。十時より御用邸ニ到り大夫ニ面会シ要談を遂ケ、十二時帰る。○午後一時過ぎ寿栄子及其他各一書来着。○夕景田内大佐へ昨日之返礼として洋食一重を贈る。○夜勝山と囲碁ニ曲、勝敗無し。○杉翁へ今朝之礼書を出す。○今朝看護婦南条来る。依テ同人儀今回解雇ニ付兩宮殿下よりとして参百円、又東宮御内儀より反物料五十円賜り、予同人へ直ニ伝達す。

九日 日 午前九時半頃川村鐵太郎伺候。御昼餐等を拜見シ十一時前退出す。○十一時より御用邸ニ到り中山大夫ニ面談す。事不如意、甚夕遺憾也。十二時還る。午後一時西郷侍医伺候す。○今日両宮御斬髮被遊。○三時頃桑野東京より帰参す。○夜長田医員予ニ室^(之)ニ来り種々議論を為す。予不能服。○今日半晴、

稍暖氣を催す。

十日 月 午前八時四十五分発之汽車にて医員長田重雄帰京シ、昨夜来着之加藤照磨勤務為ス事とせり。○午前九時頃岡侍医局長来談。当宮侍医局員改革、即チ小原免黜及弘田勤務上之事等要談す。○十一時前中山大夫より呼び呼ひニ来りたるニ付、御用邸ニ赴きたるニ矢張り弘田云々の事にて有りし。正午帰る。○午後二時より一位局伺候シ、三時半退出。○田内武官より来書。過日之礼状なり。十一日 火 午前十一時過ぎ、光宮海岸より御立寄り被遊。○午後二時御用邸ニ到り両殿下ニ拜謁。明日両皇孫殿下御用邸へ御参之儀ニ付言上する処ありたり。又一位局も参入中ニ付面会す。三時半帰る。岡崎少将^(生三)将伺候、両宮賜謁。○昼過ぎ留守より一書到来。○田内武官よりいかなの木之芳あゆを贈り来る。

十二日 水 午前十時過ぎより両宮御用邸ニ被為成、御両親殿下及光宮ニ御対顔同処にて御昼餐被遊、十二時過ぎ還御。一位局も来り居れり。○今日十二時五十分発之汽車にて桑野始メ御先発之一行帰京す。○午後三時より御用邸ニ到り雑談之上、四時頃帰る。○夕景加藤侍医ニ東宮よりの御沙汰等軽々ニ口外不可致旨告諭す。○夜御用邸ニ到り東宮ニ拜謁、種々御諫言を申上ケ、幸ニ御納得被遊歡喜之至り也。

十三日 木 午前当沼津警察署長^(久世)榎原警部を呼出シ、明日両宮還御ニ付御手当金其他、知事・警部長・警察獣医・御警衛巡查・当村駐在巡查等へ御手当金其他之伝達を依嘱す。又川村鐵太郎を呼び、同人へ借家料として目録七百円及紅白縮緬各一匹を下賜す。○午前十一時より両宮御用邸ニ被為成、御告別之上(御両親殿下ニ)十二時半還御。○午後二時より予川村及一位局を訪ひ、又御用邸ニ到り両殿下ニ拜謁、夕景迄御談話之御対手を為シ五時前帰る。○夜又東宮より被召御用邸ニ到り、今回韓国皇族ニ被進の御写真を御預り帰る。于時夜九時。○終日微雨、夜ニ入り未タ不歇。○朝寿栄子及他一通之書状を郵送す。

十四日 金 夜来降雨強かりしか御出発頃より歇ミたりしニ依り、御馬車ハ幌を開きて停車場ニ被為成たり。○午前九時三十分御旅館御出門。川村後室・同鐵太郎・村木武官長・西郷侍医其他数名来り奉送す。十時沼津停車場御着。同所

ニも県知事・警部長其他数名奉送。直ニ御発車被遊。臨時汽車なり。途中頗る御機嫌克く御午睡も被遊、二時三十分頃新橋御着。同所ニハ田中宮内大臣・中山大夫・岡侍医局長其他二、三十名奉迎シ、且ツ折柄某外国公使館附一等書記帰國之由にて外国公使等数名来り合せる。依テ両殿下ハ御通懸ケ一同へ挙手ノ礼を被遊、皆々敬服せり。三時頃青山旧御産所、今回改テ皇孫仮御殿と称する御殿へ御着被遊。○予ハ四時頃宮城ニ参内、早蕨典侍ニ面会。両皇孫殿下御安着其他之御近況を申述へ、五時過ぎ御殿ニ帰り宿直す。○当御殿も今回始メ御住居之事とて何事も未タ不整理、大ニ混雜す。○中山大夫伺候す。

十五日 土 午前林友幸翁・本居伺候。予ハ十時頃娼母一条ニ付菊池大麓を学習院ニ訪ひ、十一時前帰る。折柄早蕨典侍宮城より御使を兼ね御機嫌伺ニ伺候す。偶々両宮殿下御昼餐ニ付早蕨も御側にて拝見為シ居りたるニ、如何被遊か迪宮二、三ヒ御飯を御喫シ被遊と忽チ一回御嘔吐被遊一同大ニ驚き、依テ直ニ侍医及折節居合せたる岡侍医局長も御前ニ出テ種々御手当を^(施)旋せり。後チ鼻血も少量被遊、夕刻又一回嘔吐被遊。併シ全ク一時之御停滞らしく深く御氣遣ひ申程ニハ無之様子也。○岡侍医局長と看護婦西野之件及小原并弘田手当等之事を相談す。○五時頃退出帰宅シ一泊す。

十六日 日 今朝七時桑野より同人甥死去之旨告来る。依テ直ニ同人を宅ニ帰し、引続き八時予も又出勤す。○桂主事へ電話にて桑野除服之件を相談シ、次て桑野へ明日より出勤ス可キ旨書面を以テ申遣す。○十一時半田中宮内大臣伺候、両宮賜謁。又予ハ娼母候補人渥美千代之義、同大臣ニ相談シ同人より取調ふる事ニ依頼為シ置き、次て其簡条を認メ後より大臣之手許へ届ケ置く。○午前吉見女官伺候す。○夜宿直す。

十七日 月 迪宮今朝又一回嘔吐被遊。尤も少量之水而已なりし。○終日降雨強シ。○九時頃桑野出勤。○今日より両宮殿下の御前にてハ御容体之事、医術之事、或ハ医士同士之相談等共總テ病的の談話ハ一切為サしめざる事を侍医・看護婦及御附女中等一同へ申渡す。是ハ迪宮御幼少なれ共御異例ニ被為罹と大ニ神經ニ御懸ケ被遊、将来頗る不宜と存シ、斯々申渡シタル也。○午後一時半よ

り退出帰家シ、六時再び参殿、宿直す。

十八日 火 午前大迫侍(貞武、東宮侍從)、午後杉顧問官参殿。○今日一位局沼津より帰京ニ付
兩宮より三種交魚を賜ハリ、又余等よりちらし鮎を贈る。○午前幸橋内ニ到リ
斬髪す。○杉翁へ竹田画竹外一枝之画幅報酬として井上勝彦周旋前田某へ可渡
金員式十五金を渡し置く。○夕刻桂潛太郎来談。

十九日 水 午前九時前桑野出勤、来る廿九日之迪宮御誕辰之件ニ付協議す。○
午後二時頃より毛利公(元昭)を訪ふ。偶々公爵夫婦ハ上野へ被行たる趣ニ付、後室ニ
面会シ、兩宮殿下御袴着之式等之事を聞合し、四時頃去り帰家す。于時山尾翁
来談。今回広沢金次郎より山尾亀子を所望なし、如何可為哉等種々相談を受ケ
たり。

二十日 木 終日休養す。○夜山尾三郎来訪。亀子云々の一条也。○宅ニ泊す。
二十一日 金 午前八時三十分参殿。兩宮之御機嫌を伺ひ再び外出、武者小路ニ
今回新婚之祝儀を申述へニ到リ、又榎村後室(壽子)之宅ニ立寄り、先般娘死去之弔詞
を申シ、直ニ御殿ニ帰る。夕刻桂潛太郎来談。

二十二日 土 午前九時半より兩宮ニ陪シ青山練兵場ニ行き諸兵の訓練を被為御
覽、御帰途麻布谷町辺を御乗廻シ、十時半還御。

午後一時半一旦宅ニ帰り、後チ毛利公之園遊会ニ到る。伊藤山県兩侯・桂伯・
(従久間左馬助)
作間大將其他旧長藩出身之面々数百名来会。毛利公爵夫婦・武者小路新夫婦・
毛利後室・同五郎・小早川四郎其他一族客ニ接せられたり。四時過ぎ帰り、一
旦又宅ニ立寄り五時頃御殿ニ帰る。偶々一位局来り居れり。同人より種々玩弄
品を献上シ、又余等ニも鶏卵等を贈れり。○夕景より降雨、且ツ雷鳴せり。

二十三日 日 午前十時頃参内。早蕨典侍ニ面会シ近日兩皇孫殿下御参内之義を
協議なさんと欲したる処、聖上頃日来聊か御風邪之気味ニて被為在たる処、昨
夜頓ニ御体温三十九度以上ニ達シ、侍医之診察ニ依れハ全くインフルエンザと
の断定ニて一同大ニ心配せり。依テ兩皇孫殿下御参内も当分御見合せ之事ニ決
シ置たり。夫れより侍從職ニ到り岩倉公ニ面会、共ニ又侍医局ニ到る。偶々伊
藤侯・桂伯并ニ橋本及岡岩佐兩侍医等在り。共ニ聖上御容体を苦慮し正午過ぎ

御殿ニ帰る。○今日東宮及妃并ニ光宮三殿下沼津より葉山御用邸ニ御移転被遊
午後二時八分同所御着之由也。

二十四日 月 午前九時過ぎより兩殿下赤坂之御苑ニ被為成、予供奉す。御園ニ
て一同摘草其他を為シ御對手す。十一時前還御。○午後一時半、一旦宅ニ帰り
夫れより浜離宮の観桜会ニ参す。皇后陛下而已臨御。被為召たる者近来ニ無き
多数ニて、一同其鴻恩ニ浴せり。五時過キ宅ニ帰る。偶々隅田菊、又山尾翁・
三郎・亀子及酉子等来談。山尾一同ハ亀子近日広沢へ婚嫁之義ニ付相談之為メ
也。

二十五日 火 午前九時半より芝勸工場ニ行き種々買物を為シ、芝ニ立寄り夕刻
帰家す。

二十六日 水 午前目下寄宿之宿舍長某ニ面会す。同人ハ当月上旬より我家ニ寄
宿ナス輜重輸卒四十余名ノ取締りを為ス者也。九時前参殿す。山中内閣書記官
来る。柴田俊一雇入云々の事を内談す。○今朝鳥居子爵之法事ニ付、余も案内
を受ケたる処、案内状留守宅ニ来り居り。余是ヲ不知、今朝同家より来否問合
せの電話ニ接シ始メテ其趣を知り、直ニ其由を申述へ断り置ケリ。

二十七日 木 朝桂潛太郎来談。是ハ来ル廿九日迪宮御誕辰祝ひ延し之一条、
昨夜葉山より申来りたる件ニ付協議之為メ也。同十時半より前条之件ニ付宮城
ニ到り早蕨典侍ニ面会、兩宮殿下より兩陛下之御機嫌伺を兼ね迪宮御誕辰御延
引等之事を申述へ、後チ内事課及外事課ニ立寄り十二時半御殿ニ帰る。午後桑
野を足立孝之一条ニ付東京府師範学校ニ遣す。○三時半柴田内閣書記官長来り、
同人弟俊一今回御殿へ雇入云々の事ニ付来談す。○夕刻近藤久敬(宮内大臣秘書官)より田中大
臣の依囑ニ依り豫テ同大臣ニ頼ミ置タル京都府女子高等学校教諭渥美千代之件
ニ付、書状を回送シ来る。○杉翁より竹田竹外一枝画幅代価受取書、前田某よ
り送付之分転送し来る。

二十八日 金 午前十一時より兩宮芝公園より日比谷公園等へ御運動ニ被為成、
予陪乗供奉す。正午過ぎ還御。○午後二時中山大夫参殿、又桂主事も来り種々
要談を遂ぐ。

二十九日 土 今日迪宮御誕辰なれ共聖上御不快ニ付御延引ニ付、午前九時半頃より赤坂御園ニ被為成、仙錦閣にて御休憩。庭前之御池にて鮎釣り其他之御遊戯之後同所にて御昼餐被遊、供奉員一同も御弁当を賜ハル。東宮職よりも桂主事・山口千鶴及水谷某両女子来る。加藤弘田兩侍医も伺候し、弘田八直ニ帰り、川村伯も同様参候直ニ去ル。宅より小六を呼び両宮の御对手を致さしむ。午後三時過ぎ両宮頗る御満足にて御殿へ還御。○今日山尾龜子、広沢金次郎へ婚嫁ニ付五時より星ヶ岡茶寮ニ到り其祝宴ニ列す。林翁并ニ子息博太郎夫婦媒酌す。夜九時帰家す。

三十日 日 午前外出、午後四時帰家。○同五時より紅葉館ニ到り山尾家里開キ之祝宴ニ列す。両家親戚之外、毛利五郎及前島密夫婦等来会せり。十時過ぎ各散し帰る。

五月一日 月 今朝淳宮御体温頓ニ昇リ三十八度ニ達す。其御様子を伺ふに全く御食物御停滞之気味故、直ニ其手当てを為す。○午前十一時参殿す。其前林及山尾両翁来訪。午後三時より山尾・広沢及林各家へ今回之祝賀及謝礼ニ歴訪し、五時御殿ニ帰る。

二日 火 午前九時より東京府女子師範学校ニ到り校長林吾一ニ面会シ、今回帰母ニ可雇入足立孝一条ニ付面談シ、尚同人ニも面接シ、帰途宮城御内儀ニ参シ新樹典侍ニ面会。両宮之御使として兩陛下之御機嫌を伺ひ、又侍従職にて徳大寺侍従長・中山大夫・岡侍医局長其他ニ面会す。其節、東宮来ル五日兩陛下之御代理として妃殿下と共に目下在京中之独乙皇族カール・アントン・フォン・ホーヘンツォルレン殿下御接伴云々の事を聞く。実ニ予等年来之宿志聊か其緒を開き歡喜ニ耐へず。十二時半御殿ニ帰る。○午後一位局参殿。

三日 水 午前十一時藤波主馬頭参殿。迪宮折柄御庭にて御遊戯中ニ付、御庭にて賜謁。○十一時過ぎより帰宅シ、夕刻御殿ニ帰る。○正午頃より降雨。○今日より靖国神社臨時大祭にて市中大二賑ふ。

四日 木 午前十時半頃寿栄子・小兒等四名同伴にて参殿。迪宮ニ拜謁シ、次て五月端午之御人形を拝見す。又両宮より御人形二台を頂戴シ、且ツ御昼食を賜

ハリ午後一時頃退出す。○淳宮今朝零時御体温四十度之由にて、岩崎、余之室二一時頃来り報す。依て一時半より同宮之御側ニ伺候シ二時半迄御容子を伺ひ、格別之御容体も不被為在様子ニ付室ニ帰る。其後引続き御体温御減退御佳良ニ被為向。○午後四時二十分新橋着にて今日東宮并ニ妃殿下御帰京ニ付、迪宮新橋停車場迄奉迎被遊、同所より兩殿下と御同車にて東宮御所へ還御被遊。○迪宮五時過ぎ御帰殿、予終始陪乘供奉す。○昨日東京府女子師範学校々長林吾一より保姆ニ可召抱足立孝承諾云々の事ニ付来書。今朝返書を差出し置く。

五日 金 午前十時過ぎ帰家、大礼服ニ着更へ直ニ宮城へ参内す。今日十二時三十分東宮并ニ妃殿下、兩陛下ニ被為代独逸皇族カール・アントン・ラフ・ホーヘンツォルレン殿下を宮中ニ御招待。午餐を被為饗、予も陪餐ス。東宮ノ如斯御接待を被遊ハ今日始メテ也。依て予等も大ニ苦慮為したるか、幸ニ東宮の御拳動大体ニ於て大ニ宜シ。一同安心ス。○午后二時半退出。一旦帰家、小礼服ニ更服之上、再び六時半より芝離宮ニ到る。独乙皇族より晚餐ニ被召たれハ也。伊藤侯其他数名也。夜十時過ぎ帰家す。○今夕広沢渡欧之送別会を親戚一同にて紅葉館ニ於て催す。予ハ独乙皇族ニ被召差支へたれ共、寿栄子而已六時頃より同所ニ到る。

六日 土 午前九時過ぎより博品館ニ到り種々買物を為シ、又芝ニ立寄り、夕刻帰家す。隅田菊来談。福原家計云々ニ付相談之為メなり。○昨夜淳宮御腹痛にて終夜御悩ミ被遊、今朝ニ到り御落付ニ相成りたり。

七日 日 午前十時半参殿。雑務多忙。

八日 月 皇后陛下昨日来御胸部御悩ミの由にて御容体不面白旨容体書到来ニ付、今朝九時半より御内儀ニ参シ、早殿典侍ニ面会。偶々岩佐及岡侍医も在席。後チ香川大夫・姉小路典侍及北島等(以下、御容体)も来り、共ニ御容体を相談す。十時半退出。帰途伊藤侯を靈南坂官舎ニ訪ひ面会シ、又古谷ニも面接シ、十二時半帰る。○今朝足立孝一条ニ付桑野御用掛を東京府知事千家男之許ニ遣し協議を遂ぐ。○午後二時より広沢ニ到り龜子ニ面会、告別す。

九日 火 今朝十一時半新橋発之汽車にて広沢欧行之途ニ上之故、同時刻停車場

迄見送りニ到る。寿栄子ハ亀子同伴ニテ横浜迄見送る。山尾翁も同行なり。○今朝曇、夕景より微雨。

十日 水 今朝九時頃、此度両宮之保母ニ可被召抱足立孝を呼び、同人之決心を確メ、尚当方後來之方針等を示シ、岩崎及桑野へも引合せ、且ツ支度料として金百円を下賜す。○今午後四時二十分東宮葉山より還御ニ付、同時刻より迪宮之御供を致し東宮御所ニ到り、同宮御文閣ニテ奉迎被遊。五時過ぎ御殿ニ還御。○夕景六時頃家ニ帰り宿泊す。○夕刻看護婦西野のぶ呼還シの件ニ付、日本赤十字社よりの照会ニ接す。

十一日 木 午前九時参殿。○同十一時中山大夫伺候。保母足立及西野看護婦之件ニ付要談す。○午後西野ニ弥解雇之事を申渡す。○同三時より泰宮御誕辰ニ付麻布御用邸ニ到り御祝酒を頂戴し、帰途末松男爵之留守宅を訪問す。

十二日 金 午前九時参殿。○同十一時看護婦西野のぶに両宮殿下よりの御手当金五百円を下賜シ、次て同人ハ又東宮職より御手当金参百円を拝受す。○大和屋へ両宮の夏服を注文す。余図を描きて示し置けり。

午後三時より毛利五郎男之園遊会ニ到り、六時前御殿ニ帰る。

十三日 土 今朝西野看護婦解雇、赤十字社ニ帰る。○午前十時半より東宮職ニ到り中山大夫二面会。両宮御避暑地之件、同日々東宮御機嫌伺云々、妃殿下召レ思之件、華族女学校運動会へ臨御云々の件等を相談す。正午御殿ニ帰る。○午後二時半より迪宮東宮へ御機嫌伺ひ被為成、次て赤坂御庭園を御同伴ニテ御運動。迪宮還御之節、東宮ニも御殿へ御立寄り淳宮ニ御対面、直ニ還御。時ニ五時半。○夕食後宅ニ帰る。偶々寿栄子ハ広沢亀子・前島米子と共に三井呉服店へ買物到り不在故、直ニ帰殿之積りニテ玄関へ出てたる所へ皆、帰り来り、玄関ニテ雑談し直ニ帰殿ス。広沢寿子及同温子来り遊へり。○留守へ福原又市来り、豫テ同人へ依囑なし置たる来原父君之小伝を遺し置きたり。○靴屋高橋へ両宮の靴を申付く。

十四日 日 午前九時より両宮御馬車ニテ堀端通り御茶之水橋及九段招魂社脇等を御運動被遊、十時三十分還御。余陪乗供奉す。

十五日 月 午前中雑務多端。○午後五時頃帰家、再び外出す。

十六日 火 松尾寅三頃日馬関より上京、今日余之留守ニ来訪せる由。○香川県知事小野田元郷より香川県産塩鯛を贈り来る。○夜八時帰家、宿泊す。

十七日 水 今晩三時過ぎ、余大ニ下痢シ後チ寢室ニ帰らんとする時、輸卒兵四十余名之宿泊せる室ニ接する廊下を通りしに、一種の臭氣ニ感シ忽チ胸困しく成り、其後大ニ煩悶シ終ニ本日終日横臥、殆と絶食加養シ、夕刻ニ到り聊か苦悶を忘る。○本日正午、東宮へ御陪食之筈なりしか、右之如く病氣之為メ拜辞す。

十八日 木 今朝稍快気なしたるニ付八時半参殿す。○朝来豪雨。○本日ハ華族女学校之運動会ニテ治子及八重子兩名大ニ楽しミに為したるニ、右の豪雨ニテ頗る失望す。○正午今回両宮の保母ニ被召抱たる足立孝子参殿。依テ両宮賜調。次て皆々ニも引合せ続て就職す。午後二時過ぎ右孝子之父元太郎、予を御殿ニ訪問シ面会す。

十九日 金 午前足立孝より両宮へ三種交魚を献上す。後御残りを九条道孝従一位へ賜ハる。○今日華族女学校運動会ニテ治子及八重子ニ誘ハれ、寿栄子も観覧ニ到る。○四時頃九条道孝実伺候。両宮賜調。○今朝三時過ぎより雷鳴驟雨、一時特激し。六時頃歇む。

二十日 土 午前九時より両宮渋谷及目黒方面へ御乗廻シ被遊、余陪乗供奉す。足立孝子も今朝初メテ供奉す。十時三十分還御。午後四時二十分妃殿下及光宮葉山より御帰京ニ付、余ハ其前新橋停車場ニ到り奉迎を済ませ、直ニ東宮御所ニ帰り、後チ両殿下ニ今回被召抱たる保母足立孝子之一条、其他両宮之御近情を巨細言上す。○両宮ハ妃殿下還御前桑野及岩崎供奉ニテ東宮御所ニ被為成、母君殿下を奉迎被遊。○予ハ六時半帰宅す。豫テ今日寿栄子之誕生を祝する筈ニテ(実ハ昨日なれ共祝ひ延ハし為シたる也)、山尾翁及頃日上京為したる松尾寅三を招きありたり。依テ共ニ祝宴を為シ、食後松尾と囲碁二曲、皆勝を得。夜十時一同散す。○過日在沼津万里小路幸子へ野菜を贈りたる返書来る。

二十一日 日 午前八時過ぎ、寿栄子学習院之学生保証人会ニ到る。○十一時よ

り鳥居坂二行き山尾翁及松尾二面会、再ひ宅ニ立寄り十二時御殿ニ帰る。○午後三時東宮御参、四時半迄御遊ひの上還御。足立孝子及原田侍医(貞夫 侍医)ニ拝謁を賜ふ。○洋服屋之仮縫御試ミ及諸買物等雑事多忙。○足立孝二両宮の御日誌を日々記する事を命す(日時たしかならず、此日と覺ふ)。

二十二日 月 午前九時東宮御所ニ到り、今日足立御用掛妃殿下へ拝謁云々の事ニ付御大奥にて打合せを為シ、十一時御殿ニ帰る。○午後一時半再ひ東宮職ニ到り、二時足立孝子伺候ニ付、余誘引シ妃殿下の拝謁を済ませ、余ハ次て東宮の御供を為し主馬寮ニ到り、兩皇孫も桑野及岩崎供奉御参、曾テ大山元帥及児玉大将より兩皇孫ニ献上なしたる驢馬二頭を被為御覧、次て其他の乗馬及学習院生徒之乗馬をも御覧之上、御帰途ハ御馬車にて四時還御。○今日半晴、暑氣募ル。

二十三日 火 午前九時半東宮職ニ出で東宮ニ拝謁し、京都行ニ付御用等を承る。殿下ニも今朝来少シ御発熱御風邪之氣味にて被為在、是より御仮床ニ被為入苦也。○十時三十分頃一旦帰家し再ひ外出す。○午後京都出張之辞令を受く。

二十四日 水 早朝田中宮内大臣へ書状一通を出す。○又桑野より昨夜より迪宮殿下少々御発熱八度二分ニ達シ、御食氣少く全く御食物御滞停之氣味之由、電話にて申来る。依テ十時參殿。兩宮ニ拝謁、且ツ桑野・侍医・看護婦等ニ余京都之不在中之御手当其他を申渡シ、十一時過ぎより東宮職ニ到り東宮并ニ妃殿下ニ御暇乞を申上ケ、又昨日沼津より帰京之万里小路幸子ニも面会し十二時半家ニ帰る。○午後三時過ぎ山尾翁及酉子来訪。○夕刻六時新橋発之夜行列車にて京都ニ向ふ。停車場にて偶々長谷川はま二面会す。○此行新橋駅長之心配にて余の室ハ余一人の独占にて大ニ仕合す。

二十五日 木 午前七時二十分京都七条停車場着。直ニ麩屋町俵屋ニ投宿す。○九時頃より児玉資信及主殿亮中川忠純来訪。○午後早々大森知事を府庁ニ訪ひ此行の用務を述へ、同人之意見をも聞き、直ニ同知事同道にて渥美千代の就職なし居る女子高等(京都府立第一高等女学校)学校へ赴かんと為シたる処、生憎渥美過日來病氣之由にて引籠り中との事にて大ニ当惑シ、不得止知事ニ於て其病症等を取調へ余ニ通知す

る事を約シ、別れて旅宿ニ帰る。○四時頃大森知事来訪。河原校長(二郎)と談話之趣其他の様子を告ニ来りたる也。○夜児玉資信来り囀基二曲、勝敗無し。

二十六日 金 今日覺是院殿御忌日ニ付、午前九時旅宿を出て児玉資信同伴にて靈山御墓所ニ參拜シ、次て西本願寺ニ立寄り名刺を遺し、十一時頃帰宿す。○午前東京桑野へ宛て電報を出シ兩宮之御様子を伺ひ、十一時過ぎ返電来る。○午後寿栄子及他ニ一通并ニ桑野へ郵書を發送す。○夕刻より児玉資信来り夕食を与にし、後チ囀基、悉く敗す。○今日朝來降雨、夕景より歌ミ舞レ模様となる。

二十七日 土 今日快晴、風強し。○午前八時より鴨東博覽協會ニ到り陳列品を一覽す。幹事辻信次郎及沓田書記長出て案内す。余ハ兩宮之御玩弄品等數種を購ひ、十時半帰宿す。○午後露國バルチック第二艦隊揚子江口馬鞍山附近ニ來航なしたる旨之号外を觀る。実ニ今後之一報心配ニ不耐。後チ又對島海峽ニ迫りたる由を聞き、戰雲益急なるを覺ゆ。○午後東京桑野よりの報ニ迪宮の御病症ハ麻疹なる由を告ケ来る。依テ又其詳細并ニ余の進退之件ニ付返電す。○夕刻大森知事より明日渥美へ面会云々の事書面にて申来る。直ニ回答す。○夜京極へ散歩ニ到り、帰途玉突ニ立寄り十時半帰宿す。留守中中川忠純及児玉資信来訪。

二十八日 日 「皇后陛下御誕辰」午前中川主殿亮来訪。囀基數曲。○正午前第一高等女学校々々長河原一郎より電話にて渥美千代出校なしたる旨申来る。依テ余も直ニ同校ニ到り渥美二面会シ、又偶大森知事も來会、共に同校生徒の催しニかゝる春錦会之演技等を一覽し、二時帰宿す。○夕景桑野より來電、迪宮御異例ハ至極輕症なる麻疹之由ニ付大ニ安心す。依テ直ニ返電、余之帰京猶余を申遣す。○又大森知事来訪。渥美千代宮中御奉公頻りニ辭退云々申談す。依テ其理由無き旨を申告く。○又留守寿栄子より來書。○夜児玉来り囀基數曲。○二十九日 月 午前高島屋へ買物ニ到り、帰途土手町別邸ニ立寄り昼食の饗を享け四時過ぎ帰宿す。○大森知事より來翰。渥美漸く大森の説得に服したるやの趣にて、後日余同人二面会之筈ニ為し置たる由也。○今日弥我海軍大ニ露國バ

ルチック艦隊の一部を対島海峡ニ於て大ニ破り、未曾有之大捷利を得シ由。実ニ海軍の勇武賞するニ辞無く、皇國之為メ只々万歳を唱ふ。○芝より來書。○夕景日高秩父東京より奈良を経て当地ニ着シ面会す。

三十日 火 午前十時頃渥美千代來り、同人事弥迪宮淳宮兩殿下ニ御奉公御請ケ申旨申出す。依テ余兩宮殿下ニ関する今日迄之由來、現今の事情及將來之余之希望等大略申談し、正午過ぎ相別る。○午後二時より杉翁を旅宿沢文ニ訪文し五時頃帰宿す。○夕刻より日高及中川來り夕食を共にシ、且ツ囲碁數曲。十時頃皆散す。

三十一日 水 午前九時頃杉翁來訪。○次て河原校長來り種々渥美一条ニ付内談し、終て再び渥美を呼ひニ遣し、河原と同席にて渥美ニ支度料其他引当として貳百円差遣し置く。十二時頃皆散す。○午後中川忠純來訪。又囲碁一曲。○夕刻七時過ぎ旅宿俄屋を出て、夜八時六分七条停車場発列車にて帰東之途ニ就く。○寝台車余の一室ニハ他ニ西洋人三名宿シ甚タ困る。

(付記)

本稿の記述および翻刻は、執筆者個人の見解に基づくものであって、宮内庁の公式見解ではありません。